東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2008年5月23日

結婚の意義

親愛なるムスリムの皆様。社会を構成する基本的な単位は家庭です。家庭の安泰と幸福は、集団の安泰と幸福を意味します。やすらぎのある家庭を築くためには、公正で、目的に適った結婚が前提となります。ところで、結婚の目的とは何でしょうか。

結婚における目的は、単に子孫を残すことではありません。女性は、単に子供を生むという目的のみで創造されたのではないのです。結婚の目的は、性的関係を持つことのみでもありません。もしそうであったとすれば、性的関係のみを持って、別々の家に住み、別々の暮らしをすることが適当となったでしょう。

しかしアッラーは、

「またかれがあなたがた自身から、あなたがたのために配偶を創られたのは、かれの印の一つである。あなたがたはかの女らによって安らぎを得るよう（取り計らわれ）、あなたがたの間に愛と情けの念を植え付けられる。本当にその中には、考え深い者への印がある。」

（ビザンチン章第２１節）と仰せられ、やすらぎを得るために配偶者を創造されたことを明らかに示しています。

結婚の最も根本的な目的は、アッラーとアッラーの使徒が喜ばれるような子孫を育てることです。「そこでザカリーヤーは、主に祈って言った。『主よ、あなたの御許から、無垢の後継ぎをわたしに御授け下さい。本当にあなたは祈りを御聞き届け下さいます。』」（イムラーン家章第３８節）という章句における聖ザカーリーヤーの祈りは、まさにこの真実を言葉に表したものです。注意してみるならば、ここで聖ザカーリーヤーは単に「後継ぎ」ではなく、「無垢の後継ぎ」を望んでいることがわかります。これは、先にも述べたようにアッラーとその使徒が喜ばれるような清らかな子孫を意味します。何か他の目的でなされた結婚から、このような後継ぎがどうやって生まれるでしょうか。預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）が　「結婚し、子孫を増やしなさい。なぜなら私は、最後の審判の日、あなた方の数の多さによって誉れを得るであろう」とおっしゃっておられることも、この意味で捉える必要があります。ここでの「誉れを得る」という表現も、とても重要です。なぜならここで求められているのは、預言者がその数の多さによって誉れを得られるような、子孫であるからです。学もなく、無知で、酒や賭博といった悪い習慣に陥った子孫によって預言者が誉れを得ることはありえません。数が増えることを預言者が望まれる子孫は、民族的、そして精神的なダイナミックさを持ち、文明の光によって教育を受けた子孫なのです。だから、どのような理由があるにしろ、この意図から外れた目的の為になされた結婚は、結婚の真の意義に反するものとなります。例えば、外国で、ただビザを得る目的で結婚すること、我欲に固執して、常に結婚しているのに第二の結婚を行なうことなどは、結婚の意義にふさわしい行動ではありません。

親愛なるムスリムの皆様。次のことも、ここで述べておきたいと思います。結婚は、人生の最も重要な問題です。預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）が、「冗談であっても真剣なこととなり、真剣であれば真剣なことである」とされた事項に、結婚と離婚が含まれているのです。つまり結婚とは、その気になったといっては実行し、飽きたといっては破棄し、また次の結婚を・・・というような遊び半分の合意ではないのです。だからアッラーは、「出来るだけ仲良く、かの女らと暮しなさい。あなたがたが、かの女らを嫌っても（忍耐しなさい）。そのうち（嫌っている点）にアッラーからよいことを授かるであろう。」（婦人章第１９節）と知らされたのです。預言者ムハンマドも、人は妻を憎悪してはいけないこと、いやな点があったとしても、そのうち気に入る点も見つけるであろうことを述べておられます。この意図のために家庭を築く人々、築こうとしている人はなんと幸福なことでしょう。